

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体 育	<p>重点目標 自らきたえる子ども の育成</p> <p>手段 1 進んで運動に 取り組む子を 増やす。</p>	<p>1 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のアンケートによると「昼休みは、元気に外で遊んでいますか。」の問いに対して81%が肯定的な意見であった。 ○ 保護者のアンケートでは、「家庭で運動したり、自分で歩いて登校したりしていますか。」の問いに対しては、94%が肯定的な意見であった。 ○ 本年度実施した新体力テストの総合評のD・E段階の児童は、男子が33.8%、女子が29.2%であった。昨年度とほぼ同様であったが、男子は、目標値には届かなかった。種目別に見てもソフトボール投げや握力など、男子に比べると女子の伸びが大きかった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男子の体力向上に努力してほしい。 ○ これから成長していく子ども達には、基礎体力を身に付けいってほしい。しかし、昼休みは元気に外で遊ぶことが100%でなくてよい。図書室で本を読むことが大好きな児童もいると思う。 ○ 超高齢化を迎えつつ、今、自立できる体力づくりは大切である。地域や保護者の協力を得て、体を動かす機会を増やしたり、外遊びの時間を保障してあげることが必要である。
	<p>2 最後までやり 抜く経験を 増やす。</p> <p>3 立腰を意識し、 実行できる子 を増やす。</p>	<p>2 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のアンケートによると「学習や係活動、手伝いなどに、最後までしっかり取り組んでいますか。」の問いに対して89%が肯定的な意見で、職員のアンケートでは、92%が肯定的な意見であった。 ○ 保護者のアンケートでは、「家庭で学習やお手伝いなどに最後までしっかり取り組んでいますか。」の問いに対して83%が肯定的な意見であった。 ◇ 日常的な取組や称賛により、児童に少しずつやり遂げる気持ちが高まってきている。家庭学習については、個人差があるので継続的な働きかけが必要である。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ よくできている。 ○ 周りの大人の声かけが大切だと思う。 ○ 家庭学習については、個人差があるので継続的な働きかけが必要だと思います。 ○ 児童は本来、体を動かしたり、お手伝いをするのが好きなのだと思う。 ○ 小さなことでも、ほめて達成感を味わうと次もがんばろうと意欲をもつと思う。 ○ 大人が認め、ほめていくことで、最後までやり抜く気持ちをもっていくと思う。
		<p>3 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のアンケートによると「授業中は、立腰の姿勢で話を聞くことができますか。」の問いに対して63%が肯定的な意見であり、職員のアンケートでは、40%が肯定的な意見であった。 ◇ 毎時間の授業の始めと終わりや全校朝会の始めと終わりに毎回、立腰を意識した指導を行っている。機会を捉えた指導の継続により児童の立腰についての意識は高まってきているが、常にその姿勢を維持することは難しい面がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 大人になっても背筋がピン伸びている人は素敵で、考え方もしっかりしているように見える。姿勢は大切である。 ○ 立腰については、1年から6年まで体力差もあるので困難さはあるが、職員のより一層の努力をお願いしたい。 ○ 学年・学級によって差があるように感じます。 ○ 入学式、卒業式等、行事における児童の姿勢はよいと思う。学習中、長時間、立腰の姿勢を持続することは児童の場合は難しいので、時と場に応じて意識を促す教師の声かけをお願いしたい。

